

<ティーチングポートフォリオ>

家政学部家政学科服飾文化専攻

特任講師 菊地紗代

1.教育の責任

家政学部家政学科において、服飾文化専攻の専門科目、衣料管理士（TA）資格取得に関わる協会認定登録科目、及び教育職員免許状取得（高等学校教諭一種免許状家庭・中学校教諭一種免許状家庭）のための科目を担当している。主に被服造形に関わる分野であり、担当科目を以下の表に示す。

授業科目	学部・学科・専攻	学年	単位数	形態	必・選	免許 資格
被服学	家政学部家政学科 服飾文化専攻・健康栄養学専攻	1 年前期	2	講義	必	教職必
スタートアップ ソーイング	家政学部家政学科 服飾文化専攻	1 年前期	1	演習	必	
アパレル製図法Ⅰ (平面)	家政学部家政学科 服飾文化専攻	1 年前期	1	演習	必	TA
アパレル製図法Ⅱ (応用)	家政学部家政学科 服飾文化専攻	1 年後期	1	演習	必	TA
被服造形実習Ⅰ	家政学部家政学科 服飾文化専攻・健康栄養学専攻	2 年前期	1	実習	選	教職必
被服造形実習Ⅱ	家政学部家政学科 服飾文化専攻	2 年後期	1	実習	選	教職必
被服造形実習Ⅱ	家政学部家政学科 健康栄養学専攻	2 年後期	1	実習	選	教職必
被服造形実習Ⅲ	家政学部家政学科 服飾文化専攻	3 年通年	2	実習	選	教職選
アパレル生産実習	家政学部家政学科 服飾文化専攻	3 年前期	1	実習	選	
専門研究Ⅰ	家政学部家政学科 服飾文化専攻	3 年通年	4	演習	必	

上記の他、年 2 回のファッションショーや作品展の運営・衣装制作指導、ファッションサークルの顧問として課外活動の指導を行っている。また、小学校家庭科の授業におけるミシン学習のサポートボランティアや、NPO 法人と連携したオリジナルのアームカバーの企画・

開発・製作などの地域連携事業に携わっている。

2.教育の理念

主に被服造形（洋裁）に関わる授業を担っている。ファッションの評価はデザインなどの美しさといった外観が優先されやすいが、そのためには高く確実な縫製技術が不可欠である。しかし、学校教育で縫製を学ぶ機会は減り、技術低下が問題となっているので、基礎基本からしっかりと学ばせ、応用発展につながるよう専門知識と技術の習得を目指している。

本学家政学部家政学科服飾文化専攻では、生活の基盤となる家庭科を教える教員養成も担っているので、将来の指導的立場としての人材養成、また今後の服飾産業を担う人材が被服造形に興味関心を深め、学習意欲や技術力の向上、更に東北の服飾産業発展につながることを念頭に教育している。

3.教育の方法

被服学の講義においては各テーマに沿った実物資料を提示し、身近な問題として捉えられるようにすることで理解度を深め、興味関心を持つように促している。テキストの他に作成したオリジナルのワークシートを活用し、適宜メモを取り復習しやすくなるよう指導している。また、毎回授業の最後に授業のまとめや考察・感想をグーグルクラスルームにて提出させ、理解度の確認を行っている。

アパレル製図法や被服造形実習などの演習・実習授業においては、教員の製図や縫製作業の様子をプロジェクターで拡大して投影し、学生が細かいところまで確認することができる工夫をしている。また、作業動画やサンプル作品の写真をグーグルクラスルームへ投稿しており、授業内外において学生が自主的に調べながら作業を進めることができるように促している。なお、縫製実習では、各自作業工程についてノートにまとめさせている。方法や要点を再確認し、知識・技術を定着させることが目的であり、復習や自主制作に活用させている。

また授業内に、市内の生地店での資材視察やホテルでのブライダル研修といった学外研修を取り入れ、学外に出る機会を設けている。

4.教育の成果

2024年に実施した授業評価アンケートの中から、私が担当した科目の学生評価を以下に示す。どの科目も概ね良好であった。特に演習・実習授業では、学生とのコミュニケーションを図って質問しやすい環境を作り、一人ずつ丁寧に指導して完成度の高い作品制作を目指したことで、学生の満足度が高くなったと思われる。

科目名	回答数	総合的評価
被服学	18	4.82
スタートアップソーイング	20	4.86
アパレル製図法Ⅰ(平面)	18	4.81
アパレル製図法Ⅱ(応用)	16	4.81
被服造形実習Ⅰ	13	4.82
被服造形実習Ⅱ	12	4.93
被服造形実習Ⅲ	5	4.88
アパレル生産実習	5	4.96

教員側の評価としては、特にファッションショー作品など課外の作品制作指導の際に、基礎的な知識・技術が身についていなく、応用できていないと認識することがある。授業で一度学習しただけでは、忘れてしまったり理解が不十分であったりするので、各授業において復習し、確認しながら進めていく必要がある。

一方、全国コンテストに出品した学生の作品が入選し、外部から高い評価をいただいた。学生の努力と創意工夫による結果であるが、日頃の学習内容を基に、応用発展させていくことができた。

5.教育の改善と目標

縫製作業を苦手としたり、授業外の自主的な学習に負担を感じたり、体調不良などによる欠席で作業が進まない学生が一定数存在する。自ら意欲的に取り組む力が培われるようにするために、各々のレベルに合わせた指導方法や内容を工夫し、より細やかに配慮していきたい。

また、被服造形実習Ⅲにおいては、パターンについてアパレル CADⅡの授業と連携を図り、より実践的・専門的な授業内容になるよう体制を整えていきたい。